

「龍雲寺と伝授院文書」

文書館では、このほど「龍雲寺文書」163点の寄託を受けました。

この「龍雲寺文書」は、龍雲寺参道の南にある旧伝授院の襖の下張りから発見されたものです。

「伝授院」は、明治5(1872)年の「寺院本末一派明細帳」によると、「創立年歴不詳、延享二乙丑年中入念ト申ス僧、時ノ鐘造仕リ守持ノ為中興造立」とあり、延享2(1745)年に鐘撞僧として従事した入念の住居として建立されたものと推測されます。この伝授院の襖の下張りから発見された文書の一つから、龍雲寺の鑄鐘は、享保19(1734)年であることが明らかになりました。なお、伝授院は嘉永6(1853)年に再建され、隣接する千体堂と一緒に建立とされていますが、現存する伝授院の建物は、その後改築されたものと推察されます。

この貴重な文書を昭和40(1965)年に発見したのは、大島の小林暢雄さんで、襖ごと譲り受け整理し、これまで大切に保管されてきました。

文書館では、この龍雲寺文書をテーマに、3月24日からは前期の企画展示を、10月6日からは後期の企画展示を開催するとともに、下欄のとおりワークショップを開催します。

この機会に、ぜひお出かけください。



写真：龍雲寺参道南の旧伝授院

「小布施における寺院の展開」

文書館ワークショップを開催します

龍雲寺境内にある旧伝授院の襖の下張りから発見された「龍雲寺文書」から見える近世の村人の暮らしについて、この文書の収集・寄託者で、郷土史家の小林暢雄さんを講師に、3回のシリーズに分けてお話をさせていただきます。

受講料は無料、申込みも不要です。

どうぞお気軽にお出かけください。

日時 3月7日(土) 午後3時～4時30分

会場 小布施町公民館3階 講堂

講師 郷土史家 小林暢雄さん



写真：文書館に寄託された「龍雲寺文書」の一部

【今後の予定】

◎第2回 期日 5月9日(土) テーマ「龍雲寺の山号と小布施村の異称について」

◎第3回 期日 6月13日(土) テーマ「寺請・寺送り・往来手形文書について」

※ いずれも時間は、午後3時～4時30分。場所は、公民館3階講堂です。